ピースボート地球大学

2014年夏期

「世界に学べ！未来へつなぐ持続可能な発展」

世界に学べ！
未来へつなぐ
持続可能な発展

【目的と概要】

私たちの暮らしの周りでは、平和で安全な生活を脅かす出来事がたくさん起きています。環境分野では、地球温暖化、砂漠化、生物多様性の危機、そして原発による放射能汚染など、また経済分野では、金融危機やエネルギー、食糧価格の高騰など不安定な状態が続いています。そしてグローバル化とともに、途上国の貧困問題をはじめ、先進国においても格差社会が進行し、テロや紛争なども世界各地で起きています。このような顕在化する地球規模の問題を解決するためには、「持続可能な発展」という考え方が大切になります。第84回ピースボート地球一周の船旅で実施した2014年夏期地球大学では、「環境」、「貧困」、「紛争」をキーワードに、地域市民やNGOの取り組みから、持続可能な社会の実現にむけて私たちに何ができるのかを学びました。

【受講生】

- 18歳～79歳の計40名が参加（そのうち14名が現役大学生）
- 男12名　女18名
- 平均年齢　25歳

【地球大学とは】

「地球一周の船旅」を活用し、乗船前･下船後の活動を含めたカリキュラムを組んだ、「アクティビストを育てる」ためのプログラムです。訪れる名地域の現場体験と洋上プログラムを合わせ、地球規模の問題を自分の問題として考える視点を養います。

平和な社会を築く当事者として、これから NGO ・ NPO や国際機関、地球活動など、さまざまな領域で活躍したい人が、必要な知識や経験、行動力を身につけ、世界に羽ばたくことを目的としています。

STEP1

乗船前∫情報を知識へ∫

【事前合宿】

ピースボート地球大学では、出航前に事前学習を行い、テーマに関する基礎知識を身につけています。今回は、ピースボート災害ボランティアセンター（PBV）の協力のもと、2014年5月3日～5日に宮城県石巻市で実施しました。地球一周をとおして約3ヵ月間のプログラムを共にする仲間とのチームワーク作りや、持続可能な発展についての基礎知識を身につけるために行いました。参加者一人ひとりが自然災害後の復興や、地域づくりの難しさ、そして防災減災に取り組むNGOの活動から、持続可能な社会づくりについて理解を深めました。

合宿の詳細はこちら　http://www.peaceboat.org/3656.html

【出航前の課題】

名ユニットのテーマに関する基礎知識を身につけるために、以下の課題に取り組んでもらいました。

- 持続可能な社会とはどのようなものか、環境、貧困、紛争などをキーワードに、考えまとめてくる。
- 貧困がもたらす「負の連鎖」について考え、まとめてくる。
- 動画「スリランカ内戦、癒せぬ傷あと」を観て、問題だと思ったことをまとめてくる。

【期間】2014年5月～6月

以下の書籍や視聴覚資料に取り組むことを必修としたほか、多数の図書を推薦としました。

テーマ	媒体	タイトル	著者	出版社/年
環境	書籍	日本人の知らない環境問題　「地球にやさしい」では世界は救えない	大賀 敏子	ソフトバンク新書/2012
環境	WEB	NHK for School 第20回 持続可能な社会 http://www.nhk.or.jp/syakai/10min_koumin/index_2013_020.html	NHK	NHK/2013
貧困	書籍	世界から飢餓を終わらせるための30の方法	特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド	合同出版/2012
貧困	書籍	新・現代アフリカ入門――人々が変える大陸	勝俣 誠	岩波書店/2013
紛争	WEB	わかる！国際情勢Vol.40 スリランカ内戦の終結～シンハラ人とタミル人の和解に向けて http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/wakaru/topics/vol40/	外務省	外務省/2009
紛争	WEB	Watch Videos Online スリランカ内戦 癒えぬ傷あと http://www.veoh.com/watch/v185578844SCwHf5Y	イギリス映像制作会社	NHK BS1/2009

STEP2

地球一周∫知識を経験へ

ピースボート第84回地球一周の船旅に乗船

【期間】2014年7月9日（水）～ 10月21日（火）<105日>

Day	Date		Port	Day	Date		Port
1	07.09	Wed	横浜	58	09.05	Fri	バレッタ・マルタ
11	07.19	Sat	ホノルル・ハワイイ	60	09.07	Sun	ピレウス・ギリシャ
12	07.20	Sun	ホノルル・ハワイイ	62	09.09	Tue	イスタンブール・トルコ
24	08.01	Fri	アカフトラ・エルサルバドル	63	09.10	Wed	ブルガス・ブルガリア
25	08.02	Sat	アカフトラ・エルサルバドル	64	09.11	Thu	コンスタンツァ・ルーマニア
26	08.03	Sun	コリント・ニカラグア	65	09.12	Fri	オデッサ・ウクライナ
29	08.06	Wed	パナマ運河	67	09.14	Sun	ソチ・ロシア
30	08.07	Thu	クリストバル・パナマ	70	09.17	Wed	ミコノス島・ギリシャ
33	08.10	Sun	ウィレムスタード・キュラソー	72	09.19	Fri	ポートサイド・エジプト
38	08.15	Fri	ベレン・ブラジル	73	09.20	Sat	スエズ運河
39	08.16	Sat	ベレン・ブラジル	75	09.22	Mon	ジェッダ・サウジアラビア
40	08.17	Sun	ベレン・ブラジル	76	09.23	Tue	ジェッダ・サウジアラビア
47	08.24	Sun	ダカール・セネガル	87	10.04	Sat	コロンボ・スリランカ
50	08.27	Wed	ラスパルマス	92	10.09	Thu	シンガポール
53	08.31	Sun	バルセロナ・スペイン	95	10.12	Sun	シアヌークビル・カンボジア
55	09.02	Tue	カンヌ・フランス	96	10.13	Mon	シアヌークビル・カンボジア
56	09.03	Wed	リヴォルノ・イタリア	104	10.21	Tue	横浜

“なかなか変わらない社会の現状に対して、「しょうがない」、「しかたない」と 思っていたことが、プログラムを終えて、今の現状をそのまま受け入れるのではなく、自分自身が行動して変えていくことが重要だと考えられるようになりました。 ”

鏑木恵子さん

2014年夏期ピースボート地球大学では、 それぞれのユニットテーマに関する専門家３名を「ナビゲーター（進行役）」としてプログラムに招きました。

ユニット１　**リカルド・ナヴァロ**（国際環境団体「FoEインターナショナル」元代表）

エルサルバドル出身、ゴールドマン環境省や国連名誉500賞など数多く受賞する環境活動家。エルサルバドル最大の環境NGO「セスタ（CESTA）」創設者でもあり、地域から世界規模まで幅広く活躍している。

ユニット２　**勝俣誠**　（元明治学院大学国際平和研究所所長）

アフリカ地域研究の専門家として政治・経済・文化に精通。平和をキーワードに貧困、南北問題、人間の安全保障など幅広い分野で活躍している。現在の経済成長信仰に警告をなげかけ、より人間的な世界を目指すために活動している。最近の著作に『新・現代アフリカ入門一人々が変える大陸』岩波新書などがある。

ユニット３　**二ラン・アンケテル**（弁護士）

スリランカ・コロンボに活動する弁護士（南アジアセンター法律研究所所属）。過去にはカンボジア・プノンペンのカンボジア特別法廷(ECCC)の国際共同検察官事務所に勤務。専門は人権、憲法、とりわけ体制移行期における正義や国際法に精通しており、市民団体や政党に対する紛争終結後の司法や国際法にも助言を行っている。

【関連水先案内人】

地球大学ナビゲーターの他にも、様々な分野で活躍する専門家が「水先案内人」として乗船し、必修講座やゼミを行いました。関わりのあった水先案内人は以下のとおりです。

ビンカ・レ・ブレントン（環境活動家・作家）、**久保田弘信**（フォトジャーナリスト）、**マリオ・ゴメス**（人権弁護士、コロンボ大学非常勤講師）、**榎本英剛**（よくいきる研究所代表）、**ヤスナ・バスティッチ**（ジャーナリスト）、**武者小路公秀**（元国連大学副学長）、**羽後静子**（中部大学教授）、**大沼淳一**（中部大学非常勤講師）

【エクスポージャー（現場実習）】

地球一周の船旅で訪れた国々では、受講生必修のエクスポージャー（現場実習）を実施し、自分たちの目で見て体験し、その学びをさらに洋上でのディスカッションやワークショップで深めました。

【洋上ゼミ】

洋上での講座やワークショップを通じて知識を深め、各テーマの問題と自分とのつながりを学びました。洋上ゼミは11:30〜13:00の1コマ90分で行い、各ユニットごとに約10回実施しました。最初に、与えていた課題の確認を行い、前回までの復習が出来ているかをチェックしました。そして、地球大学ナビゲーターによる講座についてのフィードバックと、その日に扱うテーマについて紹介し、その後グループに分かれ、問題について議論やワークショップを実施しました。最後に全体に向けて各グループが発表し、ナビゲーターからのフィードバックをもらいゼミを終えました。受講生の知識の量に差があったため、必要な受講生に対して、補習や個別の課題に取り組んでもらいました。

【GET（グローバル・イングリッシュ・トレーニング）】60分 × 30回

10名のレベル別クラスにて、基礎的な会話力や、ユニットで扱うテーマなどを題材とした英会話・ディスカッションの練習を行いました。

【アクション】

船内の中で自主的にキャンペーンやイベントを行い、他の参加者も巻き込みながら、自らの行動に結びつける力を養いました。

貧困削減のためのキャンペーンを洋上で行う地大生と一般参加者

UNIT1 エルサルバドルの環境問題と人々の取り組み

【UNIT1概要】

人間の産業活動が自然環境や私たちの生活に悪影響を及ぼしています。とりわけ先進国による大量生産、大量消費の生活スタイルや経済を優先した開発が、森林や生態系を破壊し、途上国の人々の生活を厳しいものにしています。

ユニット1では、私たち人間の環境破壊が持続可能な発展を妨げていることを理解するとともに、NGOや地域主体の環境問題への取り組みから、一人ひとりができる環境活動と持続可能な社会づくりについて学びました。

【地球大学ナビゲーター】

リカルド・ナヴァロ（国際環境団体「FoEインターナショナル」元代表）

【UNIT1スケジュール】

【洋上ゼミ】　90分 × 13回

7月15日　オリエンテーション
7月16日　UNIT1事前課題チェック
7月17日「今、地球で起こっている30の真実」　地球規模の課題とは
7月18日「環境問題ってなぁに？」　環境破壊と脆弱性
7月21日　地球温暖化：映像　NHKスペシャル「気候変動」
7月25日　貧困定義と世界の貧困の現状（ミレニアム開発目標）
7月26日　貧困の構造と負の連鎖（多国籍企業、構造調整プログラム）
7月31日　エクスポージャー準備会
8月5日　エクスポージャーの振り返り
8月9日　グローバリゼーションと開発
8月11日　NGOや市民による環境問題への取り組み
8月12日　地球大学公開ゼミ「持続可能な社会を創るのは私たちだ！」
8月14日　30年後の持続可能な社会に向けて

【映像を使った学習】 90分～120分 × 4回

「フロウ(FLOW)～水が大企業に独占される！～」、「モンサントの不自然な食べ物」、「幸せの経済学」、「ありあまるごちそう」

【必修講座】

80分 × 3回　講師　　リカルド・ナヴァロ

・グローバリゼーションと開発　～本当の豊かさとは～
・宇宙船地球号　～持続可能な社会へシフト～
・正義の話をしよう！　～気候変動から考える南北問題と市民の役割～

【エクスポージャー】　エルサルバドル（アカフトラ）

2014年8月1日～8月2日（1泊2日）

カウンターパートナー／受け入れ先：　環境NGO「セスタ（CESTA）」
場所：首都郊外のサンマルコス(San Marcos)にあるセスタの事務所と、セスタが運営するエコセンター（ラスアニマス）にて実施。

ナビゲーター：リカルド・ナヴァロ（国際環境団体「FoEインターナショナル」元代表）

現場実習では、大量生産や大量消費による環境破壊とそれによる人間への影響を考えながら、持続可能な社会づくりの必要性について学びました。また、「セスタ(CESTA)」の運営するエコセンター（「ラスアニマス」）での循環型の暮らしを体験することで、持続可能な社会にむけて私たちが出来ることは何かを考えることができました。

主な活動と内容

NGO「セスタ（CESTA)）の事務所を訪問し、環境や地域社会の問題への取り組みを紹介してもらいました。とりわけ、自転車プロジェクトは環境に貢献するだけではなく、自転車修理のワークショップを開くことで若者達に活動の場を提供し、 地域コミュニティーの強化につなげていました。またエコセンターでは、 水を浄化する装置を作ったり、植林を体験したり、農作物の多様性を知ったり、地域主体で取り組む循環型の暮らしを体験することで、人間と環境とのつながりをより深く理解することができました。現地での振り返りでは、ナビゲーターのナヴァロさんやエコセンターで働くスタッフと意見交換を行いました。

評価・成果

・持続可能な地域づくりを実践している「セスタ（CESTA）」の活動や地域住民の取り組みから、個人やコミュニティーが主体的に行動することの大切さを学びました。
・植林や生活用水のためのフィルター作りなど、実際に循環型の暮らしを体験することで、日本ではどのように持続可能な地域づくりを実践できるのか考えることができました。

【ユニット1報告会】

船内　50人ほど

持続可能な社会がなぜ必要なのか、そして環境と貧困問題の負の連鎖や大量生産と大量消費の流れをどう変えるのかをスライドを使い発表しました。

環境に優しい生活習慣やフェアトレードなど、個人レベルでできる取り組みも最後に紹介しまとめました。

【ユニット１全体評価・成果】

・地球資源には限りがあり、私たちの経済活動が持続不可能な社会を作りだしている現状を理解するとともに、問題の解決に向けて行動することの大切さを、NGOや地域主体の環境問題への取り組みを通して、学ぶことができました。

・経済成長など物質的なものだけで豊かさを計るのではなく、環境への影響や暮らしの質などを考慮した人間中心の発展について考えられるようになりました。

“大量生産・大量消費、多国籍企業やメディアなど、自分達の暮らしに関わる一つひとつが、持続可能な社会とつながっていることを学びました。今後はこれらの問題を多くの人に伝えていくことが重要だと考えられるようになりました。”

樋田拓也さん

UNIT2 セネガルで学ぶ貧困からの脱却

【UNIT2概要】

世界にはいまだに12億人の人たちが1日1.25ドル以下の生活を送っています。しかし、そもそも貧困はなぜおこるのでしょうか。先進国や企業からの開発援助がある一方で、いまだに多くの人々が貧困に苦しんでいる現状をどう理解すればよいのでしょう。

ユニット2では、植民地主義などの歴史的背景や国際機関による経済政策、グローバリゼーション、児童労働など、貧困が構造的に作られていることを理解するとともに、貧困から脱却し、自立するために私たち一人ひとりに何ができるのかを考え、議論しました。

【地球大学ナビゲーター】

勝俣誠（元明治学院大学国際平和研究所所長）

【UNIT2スケジュール】

【洋上ゼミ】　90分 × 7回

8月19日　勝俣誠さん紹介
8月20日　貧困の構造～アフリカからみた貧困～（植民地主義と南北問題）
8月21日　構造的貧困を理解する　～世界銀行の正体～
8月22日　飢えの構造　～多国籍企業とグローバリゼーション
8月23日　児童労働
8月24日　大量生産・大量消費と消費者の責任
8月25日　地球大学公開ゼミ

【映像を使った学習】 90分～120分 × 6回

「誰が世界を動かしているのか（世界銀行）」、「ダーウィンの悪夢」、「ジャマイカ楽園の真実」、「児童労働～プライマーク～」、「キューバの恋人」、「ラテンアメリカ～民主主義への挑戦～」

【必修講座】

80分 × 3回　講師　勝俣誠

・正義の話をしよう！　～貧困と広がる格差社会～
・飢えの構造　～アフリカからみる貧困～
・自立と持続可能な発展を求めて　～市民が動かす貧困削減～

【エクスポージャー】　セネガル（ダカール）　2014年8月24日

当初、セネガルのダカールにてNGOアンテルムンド（Intelmondo）の受け入れの下、貧困と開発に関するエクスポージャーを計画していました。しかし、西アフリカでエボラ出血熱が拡大し、WTO（世界保健機関）が「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」と宣言したことから、ピースボートはダカールへの寄港を断念せざるを得ませんでした。そのため、UNIT2のエクスポージャーはキャンセルとなりました。

【ユニット2報告会】

船内　100人ほど

グローバリゼーションや多国籍企業の役割、そして南北問題や開発途上国への政策（構造調整プログラムなど）がどのように貧困を引き起こしているのかを分析し、発表しました。また、貧困の定義（絶対的貧困と相対的貧困）を説明する一方で、何が貧困かを経済的要素だけではなく多角的に捉えることができました。最後に、持続可能な社会づくりに貧困削減は不可欠という観点から、個人レベルで取り組める活動としてフェアートレードやソーシャルビジネスの必要性について話し、まとめました。

【ユニット2全体評価・成果】

・貧困が人の手によって作られていることを、歴史的経緯（植民地政策や奴隷貿易）、南北問題、グローバリゼーション、児童労働の問題などから、理解を深めることができました。
・途上国だけではなく、先進国の貧困についても理解を深めることで、より自分ごととして貧困問題を捉えることができました。
・貧困問題や国連ミレニアム開発目標（MDGs）達成に向けたキャンペーンとして、船上で一般参加者をまきこんだスタンド・アップというイベントを行い、貧困問題にたいする意識を高めることができました。

UNIT3 紛争後の持続可能な社会づくり

【UNIT3概要】

国どうしの争いや民族間の対立は社会機能を停止させ、国や地域の発展を妨げています。2009年にスリランカ政府は内戦終結を発表しましたが、それがすぐに平和を意味するわけではなく、現在も紛争の傷跡が社会に残っています。平和で安定した暮らしを続けるには、お互いの信頼関係を築くこと、そして被害者の人権を回復し和解を進めることが必要不可欠です。

UNIT3では、30年近く続いた紛争の背景と甚大な被害について学ぶとともに、紛争後の持続可能な社会のためにNGOや若者がどのように携わっているのかを学びました。

【地球大学ナビゲーター】

二ラン・アンケテル（弁護士、南アジアセンター法律研究所所属）

【UNIT3スケジュール】

【洋上ゼミ】　90分 × 9回

9月23日　二ラン・アンケテルさん紹介
9月25日　スリランカ内戦とは何だったのか
9月27日　スリランカ内戦がもたらしたもの
9月30日　メディアと紛争
10月2日　紛争を予防するには
10月3日　紛争解決のアクター
10月5日　エクスポージャーの振り返り
10月6日　日本が抱える争い（歴史認識、領土問題など）
10月7日　東アジアの持続可能な発展に向けて

【映像を使った学習】 90分～120分 × 4回

「Sri Lanka's killing field」, 「THE DAY AFTER PEACE」、「ショック・ドクトリン」 、「イ

【必修講座】

80分 × 3回 講師 ニラン・アンケテル

・スリランカの光りと陰 ～スリランカ内戦とはなんだったのか～
・癒せぬ傷あと、スリランカ内戦
・スリランカ、紛争後の持続可能な社会づくり ～和解への道と市民の役割～

【エクスポージャー】 スリランカ（コロンボ） 2014年10月4日

カウンターパートナー／受け入れ先： セワランカ財団 （Sewalanka Foundation）
場所：コロンボ市内
ナビゲーター： ニラン・アンケテル （弁護士）

主な活動と内容

スリランカでのエクスポージャーでは、セワランカ財団と協力してプログラムを実施しました。平和構築の活動に携わった経験のある方の話や、スリランカに住むシンハラ人、タミル人、ムスリム人の方から内戦時の様子や戦後の状況の証言を聞き、紛争後の持続可能な社会づくりについて議論することができました。また、タミル人の証言者が自分の身に危険が及ぶという理由で、受講生からの質問に答えを拒む様子などは、表現の自由や内戦後の和解が進んでいないことを露呈させました。最後に、グループごとに分かれ多民族共存の社会づくりや、内戦で被害を受けた人々への支援のあり方などを議論しました。

評価・成果

・３人の証言者（シンハラ人、タミル人、ムスリム人）から内戦時の様子を直接聞くことで、紛争がもたらす悲惨な現実について一人ひとりが自分ごととして考えることができました。
・紛争後の持続可能な社会づくりには、信頼関係の構築と和解が不可欠だということを、NGOの取り組みや3人の証言者から学ぶことができました。

“乗船前は貧困、紛争、環境問題は遠い国の話だと思っていました。また、募金や節電など一人ひとりの努力が本当に意味があるものなのか疑問でした。しかし、プログラムを通して、一人ひとりの努力が積み重なれば地球を良くすることもできると考えられるようになりました。”

宮原菜々子さん

【ユニット3報告会】

船内　80人ほど

スリランカ内戦の原因をスライドを使い説明した後、紛争がもたらした甚大な被害について証言者の話を紹介しながら発表しました。現場実習でのディスカッションやゼミや講座での学びを通して、紛争後の持続可能な地域社会をつくるには民族を超えた和解が必要であると主張し、まとめました。

【ユニット3全体評価・成果】

- 紛争後の持続可能な発展に向けたNGOや地域の取り組みから、被害者の人権回復や和解の重要性を学ぶことがきました。
- スリランカの和解プロセスから、今後東アジアの持続可能な発展に向けて日本がどのように対応するべきなのか、自分ごととして考えることができました。
- ユニットで学んだことを、船内参加者に向けて自主的にキャンペーンやイベントを企画し、問題提議や行動することの大切さを共有することができました。

GETとは、グローバルで国際的な視点を養い、地球を体感しながら、コミュニケーション能力を高める実践型の語学プログラムです。

GETの英会話レッスンを受講する地球大学生

STEP3

地球一周∫経験を行動へ

船旅を終えて帰国した後は、これまでに得てきた経験を生かし、具体的な行動へとつなげ、社会に変化をもたらす確かな力を身につけています。

2015年1月15日現在、4名がピースボートスタッフとして働いています。1名がカナダへ留学しています。そのほかJICAの青年海外協力隊や、ピースボートと提携しているNGOなどでのインターンに数名が興味を示しています。

【プログラム全体の成果と課題】

- エルサルバドル、スリランカでの環境、紛争問題におけるNGOや地域主体による取り組みから、持続可能な社会づくりの必要性について考えることができました。
- 大量生産・大量消費の自分たちの暮らし方や経済のあり方、環境とのつきあい方に問題があることを理解するとともに、問題解決に向けて何らかのアクションを起こそうという気持ちを受講生同士が共有することができました。
- 船内の一般参加者（数百名）に対し、各ユニットで学んだことを発表することで、問題意識を高め、受講生自身の自信にもつなげることができました。
- テーマに関する基礎知識の底上げと、議論できるだけの十分な情報を事前に与えることが、グループワークやディスカッションの運営をよりスムーズにするために必要だと感じました。

ピースボートは1983年に創設された国際交流の船旅をコーディネートする非政府相職(NGO)です。ピースボートが目指すもの、それは船旅を通じて、国と国との利害関係とはちがった草の根のつながりを創り、地球市民の一人として、平和の文化を築いていくことです。そんな地球市民のネットワークづくりに必要な人との「出会いの場」や、世界が抱えるグローバルな問題を現地の人たちと共に考える「学ぶ場」、そしてそれを踏まえて実際に一人一人が「行動できる場」をピースボートは提供しています。

ピースボート地球大学に関するお問い合わせ
〒169-0075
東京都新宿区高田馬場 3-13-1 2F-A
ピースボート事務局（地球大学担当：竹内法和）
TEL：03-3363-7561
Email: univ@peaceboat.gr.jp